

日蓮大聖人御書全集

たかはしどのごへんじ

高橋殿御返事

べいこくごしよ

（米穀御書）

新版
1953

たかはしどのごへんじ べいこく「しよ

高橋殿御返事（米穀御書）

たかはしろくろうひようえ

（高橋六郎兵衛）

べいこく

米穀も、またまたかくのごとし。同じ米穀なれども、謗法

もの

養

ぶつしゆ

絶

いのち

続

ごうじよう

の者をやしなうは、仏種をたつ命をついで、いよいよ強盛

てきじん

いのち

助

つい

ほけきよう

ひ

い

の敵人となる。また、命をたすけて終に法華經を引き入る

ゆえ

ほつけ

ぎようじや

じひ

なか

べき故か。また、法華の行者をやしなうは、慈悲の中の

だいじひ

べいこく

いつさいしゆじよう

りやく

大慈悲の米穀なるべし。一切衆生を利益するなればなり。

ゆえ

ぶつしやりへん

こめ

な

故に「仏舍利變じて米と成る」とは、これなるべし。かか

いまじぶん

ひと

遣

たも

もう

る今時分、人をこれまでつかわし給うこと、うれしさ申す

ばかりなし。しやかぶつ 釈迦仏・地涌の菩薩、御身に入りかわらせ給うたもか。

その国の仏法は貴辺にまかせたてまつり候ぞ。くに 「仏種はぶつしゆ縁より起る。えん この故に一乗を説く」なるべし。お

また治部房・下野房等来り候わば、いそぎいそぎつかわじぶぼうすべく候。しもつけぼうとうきた 松野殿にも見参候わば、くわしくかたらせ給そうろうえ。まつのだの げんざんそうら 詳語 遣 たま